



九州ブロックのHIV医療体制の整備に関する研究

研究分担者 南 留美

独立行政法人国立病院機構九州医療センター

AIDS/HIV 総合治療センター 部長

研究要旨

新規のHIV感染者数は九州全体としては減少傾向にあるが、いきなりAIDS率は全国に比べ高い水準で経過している。保健所によるHIV検査数はコロナ禍前のレベルには戻っていないが、予約のオンライン化、検査の民間委託、郵送検査の導入などの対策を行う地域が増えてきている。

慢性期医療体制の構築および地域医療連携に関しては、各県とも中核病院および行政を中心に、診療ネットワーク会議、曝露事故対策、歯科診療ネットワーク構築、受け入れ施設への研修等に取り組んでいる。薬害被害者が地域で安心して診療を受けるためにはHIV感染症に加え血友病診療についての啓発も重要である。

HIV診療の均てん化のために今年度も九州ブロックエイズ拠点病院研修会を行った。また、各県の中核拠点病院および行政担当者を対象に職種ごとに集まってエイズ診療ネットワーク会議を行い、情報共有および地域ごとの課題について検討をおこなった。HIV/AIDSを取り巻く医療体制の問題は、地域社会全体の課題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。

A. 研究目的

九州地方においても全国における状況と同様、新規のHIV感染者数は減少傾向にあるが、エイズ発症例は減少しておらず、いきなりエイズ率が高い状況が続いている。また長期療養及び高齢化に伴い合併症をもつ患者の割合が増加している。そのためHIV診療に携わる医療者の確保は重要な課題である。HIV感染症が慢性疾患となった現在、一般専門医療機関や介護などの施設も含めたPLWHに対する慢性期医療体制の構築、地域における医療連携の必要性が一層強まっている。

本研究は九州地方におけるHIV診療の問題点の把握および課題解決に向けたHIV診療体制の構築・医療向上を目的とする。

B. 研究方法

1. HIV診療に従事する人員の確保・専門知識の普及

HIV感染症における最新情報や知見の共有のための基礎研修を拠点病院のHIV診療担当者を中心

にオンラインで行った。基礎研修を修了した看護師対象に応用コースの研修を実地にて行った。また歯科医師研修を実地にて行った。

ブロック内のHIV診療技術の向上および最新情報の共有のため、各拠点病院のHIV診療従事者および各県の行政担当者を対象に九州ブロックエイズ拠点病院研修会を行った。また、各県の中核拠点病院および行政担当者を対象に職種ごとに集まり、エイズ診療ネットワーク会議を行った。

2. 地域医療連携

- (1) 地域連携のための研修：受け入れ施設の職員を対象とした出前研修を行った。
- (2) 病院・施設訪問：長期療養に伴う二次病院、療養施設、介護施設などにおける患者受け入れ促進などを目的として、県の薬剤師会や精神保健福祉センター、各医療・福祉施設の訪問および研修を行なった。HIV予防啓発のために福岡県内でPrEPを行っている施設と連携し状況を

確認した。

- (3) 九州内各県における PLWH の療養支援体制の状況について確認した。
- (4) 曝露事故時の予防薬に対する九州内各県の取り組みの進捗状況を確認した。
- (5) 福岡県以外の県の拠点病院を訪問し、各々の施設における課題についての情報共有や必要に応じて臨床カンファレンスを行った。

3. 薬害被害者への対応

ブロック内の薬害被害者に対し九州医療センターで精密検査入院を行い、血友病性関節症やC型肝炎、生活習慣病などの評価を行った。また、リハビリ検診（個別、集団）を行い、関節、運動機能の評価および生活面での課題について検討した。九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター内の被害者救済（長期療養）支援チームを中心に、より良い医療連携、療養環境の整備のための活動（各地域への訪問や地域カンファレンスの開催等）を行った。

薬害被害者の支援者を対象に薬害に対する知識や患者理解の促進のためシンポジウムを開催（後援）した。

<倫理面への配慮>

本研究においては患者人権とくにプライバシーの保護は重要であり、特に配慮を行なった。

C. 研究結果

1. HIV 診療に従事する人員の確保・専門知識の普及

今年度はハイブリッド形式を中心に以下の研修会・シンポジウムを開催した。

また HIV 診断啓発のための資料「一般診療において HIV 感染症を疑うコツ」の改訂を行った。

- (1) 第44回九州ブロックエイズ拠点病院研修会（ハイブリッド）

■日 時：2025年10月3日（金）14：00～16：00

■場 所：九州医療センター 4階研修室

■出席者：講師1名 参加者：126名

■テーマ：外国人 HIV 陽性者が医療に繋がるまで／事例検討

- (2) 九州ブロックエイズ診療ネットワーク会議（ハイブリッド）

■日 時：2025年10月3日（金）10月21日（火）
10月23日（木）10月27日（月） 10月28日（火）
11月14日（金）

■場 所：九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

■出席者：九州ブロック内中核拠点病院医師・看護師・CO・MSW・薬剤師・行政関係者 77名

- (3) HIV ネットワーク 第51回シンポジウム（ハイブリッド）

■日 時：2026年1月29日（木）18：00～19：30

■場 所：九州医療センター 研修室

■出席者：講師2名 参加者：44名

■テーマ：HIV と依存症

- (4) HIV/AIDS 基礎研修（オンデマンド/オンライン/対面）

・看護師コース 6月27日（参加者 15名） 10月17日（参加者 6名）

・薬剤師コース 6月20日（参加者 12名） 10月17日（参加者 5名）

・カウンセラーコース 7月4日（参加者 5名）

・MSW コース 7月4日（参加者 9名）

・医師コース 6月20日（参加者 7名）

・歯科/歯科衛生士コース 10月22日（参加者 1名）

・栄養士コース 6月27日（参加者 2名）

- (5) HIV/AIDS 応用研修（オンデマンド/オンライン/対面）

・看護師コース 10月30日～10月31日（参加者 4名）

- (6) 令和7年度九州 HIV 看護・ソーシャルワーク研修会（ハイブリッド）

■日 時：2026年1月24日（土）13：00～16：35

■場 所：琉球大学病院4階管理課 大会議室

■参加者：講師 1名、参加者：113名

■テーマ：HIV 感染症の最新情報、事例検討5例

- (7) 第22回九州ブロック HIV カウンセラー連絡会議/令和7年度九州ブロック HIV カウンセリング研修会

■日 時：2026年2月20日（金）10：30～16：30

■場 所：九州医療センター 4階研修室

2. 地域医療連携

地域連携のための研修：

今年度は受け入れ施設の職員を対象とした出前研修を17施設で行った。

- (1) 福岡県 HIV/AIDS 出前研修（オンライン・対面）

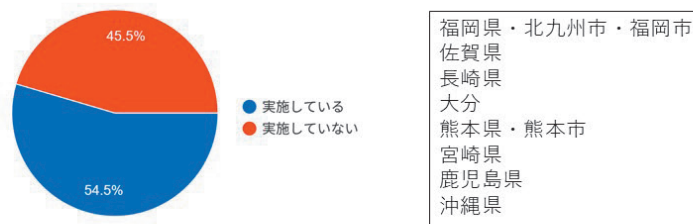
日 時：2025年5月29日（木）19：00～20：30（オンライン）

依頼元：西区ソーシャルワーク研修会

出席者：講師1名、参加者16名

日 時：2025年6月23日（月）11：30～12：30（オンライン） 依頼元：宮本歯科クリニック 出席者：講師1名、参加者5名	日 時：2025年12月16日（火）16：00～17：00（対面） 依頼元：福岡県弁護士会北九州部会 出席者：講師2名、参加者 12名
日 時：2025年6月27日（金）18：30～19：30（対面） 依頼元：一般社団法人ばるむ 出席者：講師1名、参加者11名	日 時：2025年12月25日（木）14：00～15：00（対面） 依頼元：メディケア癒し四番館有田 出席者：講師2名、参加者 11名
日 時：2025年7月8日（火）15：00～16：00（オンライン） 依頼元：久留米リハビリテーション病院 出席者：講師1名、参加者9名	日 時：2026年1月22日（木）17：30～18：30（対面） 依頼元：医療法人社団江頭会さくら病院マイライフさくら 出席者：講師2名、参加者 40名
日 時：2025年8月4日（月）14：00～15：00（オンライン） 依頼元：医心館 六本松 出席者：講師1名、参加者7名	日 時：2026年1月23日（金）16：00～17：00（対面） 依頼元：桜十字病院訪問看護ステーション 出席者：講師2名、参加者 18名
日 時：2025年8月18日（月）14：00～15：00（対面） 依頼元：若松区ケアマネージャー分科会 出席者：講師2名、参加者23名	日 時：2026年1月27日（火）16：30～17：10（オンライン） 依頼元：わかばハートクリニック 出席者：講師1名、参加者 13名
日 時：2025年9月4日（木）19：00～20：30（対面） 依頼元：福岡市精神保健福祉センター 出席者：講師3名、参加者22名	日 時：2026年1月29日（木）13：00～13：40（オンライン） 依頼元：医療法人あおばクリニック 出席者：講師 1名、参加者 名
日 時：2025年11月5日（水）17：20～18：00（オンライン） 依頼元：誠愛リハビリテーション病院 出席者：講師1名、参加者351名	(2) 病院・施設訪問 九州医療センターとの地域連携協力病院3か所、福岡県の薬剤師会2か所、STIクリニック1か所および福岡市精神保健福祉センターを医師やMSW、心理士で訪問した。HIV診療の最新情報や県内の診療状況についての情報提供を行い、今後の連携を依頼した。福岡市精神保健福祉センターでは、「福岡市依存症支援者連絡会議」に出席し当院の事例を含め意見交換を行った。依存症患者の受け入れ組織・施設と連携をとることが出来た。
日 時：2025年11月7日（金）18：30～20：00（オンライン） 依頼元：公益社団法人福岡市社会福祉士会 出席者：講師2名、参加者34名	(3) 九州内各県におけるPLWHの療養支援体制の状況 九州内各県8および政令指定都市3、計11か所の行政機関にHIV陽性者の長期療養・在宅療養支援体制の整備に関する取り組みについてのアンケートを行った。11行政機関中6機関で施設向けのHIV研修を行っていた。行っていない理由として、「予算」「要望」「時間」の不足が挙げられていた（図1）。HIV陽性者の高齢化に伴う支援体制の構築に関し
日 時：2025年11月28日（金）16：35～17：15（対面） 依頼元：那珂川病院 出席者：講師2名、参加者35名	
日 時：2025年12月11日（木）14：00～15：00（対面） 依頼元：新行橋病院 出席者：講師2名、参加者 36名	

県主催（もしくは共催）で、介護・障害福祉事業所向けのHIV研修を行っているか（回答11件）



実施していない理由（回答5件）

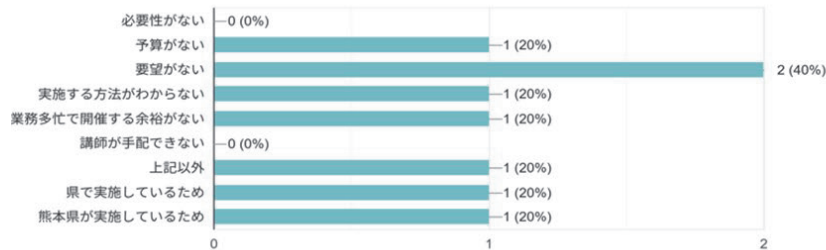


図1 県主催（もしくは共催）で、介護・障害福祉事業所向けのHIV研修を行っているか（解凍1件）

ては全機関において課題を認識していた。具体的には、「通院困難」「受け入れ先の不足」「HIVに対する関心の低さ」が挙げられていた。また課題に対し、拠点病院やNPOと連携して対応している機関は11機関中6機関であった。具体的には、研修、相談員の派遣、個別事例への対応（拠点病院と施設の連携仲介）などであった（図2）。

（4）曝露事故時の対応

佐賀県、長崎県以外は曝露時の対応について、各県のHPに掲載されていた。マニュアルは佐賀県以外は策定されていた。いずれも昨年より行政の取り組みが進んでいた。福岡県内の予防薬配置施設（拠点病院以外）に確認したところ、R7年度の使用実績は0であった。

（5）拠点病院訪問

今年度は鹿児島県内の拠点病院（鹿児島大学、鹿児島医療センター）および協力病院（鹿児島生協病院）を訪問し、「臨床カンファレンス」を行い、各施設の診療状況、課題について情報を共有した。拠点病院の偏在化（大隅半島に拠点病院がない）、拠点病院返上（出水総合医療センター）、後継者問題（鹿児島医療センター）が課題として挙げられた。

3. 薬害被害者への対応

（1）精密検査入院パス

九州ブロック内に居住する薬害被害者を対象に、短期間九州医療センターに入院して全身の精査を行う精密検査入院パスを行っている。2025年度の利用者は11名（他施設6名）であった。悪性腫瘍のスクリーニングのみでなく、必要に応じCVDの評価、整形外科受診、栄養指導、リハビリ等の生活指導を行った。

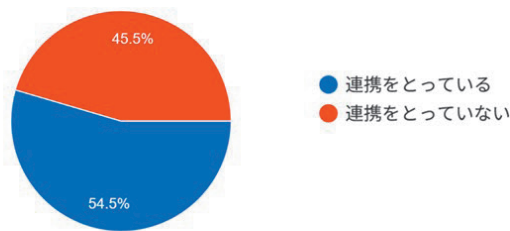
（2）リハビリ対応

九州医療センターでは薬害被害者5名を対象に外来にてリハビリを施行している。個別リハビリ検診は8名で施行。集団リハビリ検診は宮崎県立病院にて行い、8名の薬害被害者が参加された。

（3）医療・福祉施設における「薬害被害者」理解推進のためのシンポジウム（後援）

心理士が中心となり企画したシンポジウム「協働で高齢化時代の「生きる」を支える—薬害HIVを通して時代背景を踏まえた患者理解から学ぶ—」（12月9日 熊本）が開催された。時代背景を踏まえた患者理解、高齢化に対する協働支援、支援者の世代交代をテーマとして支援団体や拠点病院の心理士、ソーシャルワーカーが講演を行った。参加者は学生を含め40名（オンライン10名を含む）であった。

HIV陽性者の長期療養・在宅療養に関して、患者の個別事例を通してエイズ拠点病院やNGO等と連携をとっているか（回答11件）



長期療養・在宅医療におけるエイズ拠点病院やNGOとの連携について

北九州市	年1回程度、拠点病院と連携会議を開催し、情報を共有している
福岡県 福岡市	福岡県HIV陽性者地域支援ネットワーク
長崎県	医療機関からの相談を受けた
熊本県	拠点病院から受け入れ拒否事例の相談を受け、県から診療拒否とならないよう対応を依頼する通知を発出した
大分県	拠点病院から受け入れ拒否事例の相談を受けた
宮崎県	長期療養を行うエイズ患者及びHIV感染者等の心理的支援を行うため、エイズ中核拠点病院への相談員の配置、治療拠点病院へのカウンセラー派遣を実施
沖縄県	研修を行った

図2 HIV陽性者の長期療養・在宅療養に関して、患者の個別事例を通してエイズ拠点病院やNGO等と関係をとっているか（回答11件）

D. 考察

昨年までは新規HIV感染者のうち感染早期の患者が一定数いたが、今年は感染早期の患者数を含め新規HIV感染者総数が減少した。一方、AIDS患者数は減少しておらず、結果いきなりエイズ率の上昇につながった。単年度での検討のため正確な評価はできないが、郵送検査を含めた検査の普及、PrEP利用者の増加が確実にできれば、新規感染者が本当の意味で減少していくことが期待できる。九州ブロック内の各県でも保健所にて郵送検査を導入する県が増えている（福岡、佐賀、大分、熊本、沖縄）。今後の検査数の増加に期待したい。PrEPに関しては、九州内で対面にて処方する施設がまだ少ない（福岡3、沖縄6）。PrEPに関する情報発信を行い、協力可能な医療機関を増やしていく必要がある。

長期療養を担う医療施設との連携強化に関しては、例年通り医療・介護施設への研修や訪問を行った。PLWHの受け入れに対する考え方は施設間および職種間で様々であった。HIVに対する知識は習得出来てもHIVに対する偏見と漠然とした不安が受け入れに対する障壁となっており、これらの思考は言葉でHIVに関する情報を説明しても容易には払拭できない。実地研修や実体験、経験者からの意見が不安や偏見を軽減するのに貢献すると思われる。「福岡市精神保健福祉センター」との連携の

中で「依存症」への対応について得られた知見は「福岡HIVネットワークシンポジウム」にて情報共有を行った。

長期療養体制の構築には行政との連携が重要である。拠点病院と連携が取れている県・政令指定都市の行政機関は約半数であった。研修の実施、医療機関からの通院困難事例や受け入れ困難事例の相談が主体であるが、行政の介入により受け入れの課題が解決された例もあった。一方、研修を行っても参加者がいなかった県もあった。行政と病院が連携をとり地域で生活するPLWHのニーズにあわせて取り組んでいく必要がある。

薬害被害者への対応に関しては、引き続き九州ブロック内の被害者を対象に「精密検査入院」を行なっている。今年度は、「精密検査入院」3か月後に「咽頭癌」が見つかった例があり、検診のみでなく日常のいわゆる「診療」も重要であることを実感した。ACCの協力のもと行っているリハビリ検診会は、今年も8名の薬害被害者の方が参加された。被害者と医療者のつながりだけでなく、医療機関内の連携、医療機関同士の連携の強化につながり、今後の薬害被害者支援の円滑化に役立ったと思われる。なお、薬害被害者に関しては、止血管理が可能な施設が限られているため外科的処置が可能な施設も限定される。HIVのみではなく、血友病に関しても受

け入れ施設拡充の施策が必要と考え、HIV 研修に加え血友病に関する研修も開始している。今後、福岡地域のリハビリ施設を対象に「血友病関節症」に関する研修を開催する予定である。

拠点病院と地域の医療施設、行政が協働し、薬害被害者を含むPLWHが安心して療養できる地域包括ケアシステムの早期実現が望まれる。

E. 結論

HIV 陽性者の高齢化に伴う長期療養HIV 陽性者の増加は、次世代を担うHIV 診療従事者のみならず、地域社会全体の問題として、行政・保健所と拠点病院や関係機関が連携・協働して取り組んでいく必要がある。特に多くの合併症を抱えた薬害被害者に対しては個別に評価し個々に応じて対応していく必要がある。

PLWHおよび社会双方のニーズに合った研修を行い、知識のバリアだけでなく心理的なバリアを取り除いていくことが重要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Goto Y, Ahn YM, Toyoda M, Hamana H, Jin Y, Aritsu Y, Nakama T, Tajima Y, Maddumage JC, Li H, Kitamatsu M, Kishi H, Yonekawa A, Jayasinghe D, Shimono N, Nagasaki Y, Minami R, Taya T, Sekiya N, Tomita Y, Chatzileontiadou DSM, Nakata H, Nakagawa S, Sakagami T, Ueno T, Gras S, Motozono C. Molecular basis of potent antiviral HLA-C-restricted CD8+ T cell response to an immunodominant SARS-CoV-2 nucleocapsid epitope. *Nat Commun.* 2025 Aug 28;16 (1) : 8062. doi : 10.1038/s41467-025-63288-3.
- 2) Adachi E, Minami R, Shirano M, Nakamura H, Fukushima K, Imahashi M, Sekiya R, Yoshino Y, Taniguchi T; Evaluation of cabotegravir plus rilpivirine in routine clinical settings in Japan : A multicentre study of efficacy, safety and biomarker dynamics J - HIV RWD Collaborative Database Team. *HIV Med.* 2025 Nov;26 (11) : 1673-1683. doi : 10.1111/hiv.70096.
- 3) Ndubi M, Toyoda M, Ngare I, Motozono C, Minami R, Ueno T, SARS-CoV-2 Spike-specific T cell responses following COVID-19 vaccination in Japanese people living with HIV. *Jpn J Infect Dis.* 2025 Jun 30. doi : 10.7883/yoken.JJID.2025.086.
- 4) Yokomaku Y, Teruya K, Watanabe D, Endo T, Minami R, Taguchi N, Cassidy T, Marongiu A, Thorpe D, Shirasaka T, Oka S. Bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in treatment-naïve and treatment-experienced people with HIV : 12-month virologic effectiveness and safety outcomes in the BICSTaR Japan cohort. *PLoS One.* 2025 Jan 8;20 (1) : e0313338. doi : 10.1371/journal.pone.0313338.

2. 学会発表

海外

- 1) Rumi Minami, Lijun Sun, Yu-Ting Tseng, Lin Cai, Ping Ma, Katsuji Teruya, Nao Taguchi, Paul McDwyer, Julie Ryu, Weiping Cai Travis Lim Twelve-Month Effectiveness and Safety of Bictegravir/Emtricitabine/Tenofovir Alafenamide (B/F/TAF) in Treatment-Experienced People With HIV : A Pooled Analysis From Observational Cohort Studies Across Asia Asia-Pacific AIDS & Co-Infections Conference (APACC) ; June 12-14, 2025; Tokyo, Japan
- 2) Hideta Nakamura, Rumi Minami, Michinori Shirano, Nanae Ikemiyagi, Takeshi Takaesu, Kazutaka Yamaniha, Wakako Arakaki, Kazuko Yamamoto. The prevalence and risk factors of frailty in Japanese people living with HIV. European AIDS Conference 2025 - 15-18 Oct, Paris

国内

- 1) Premature Agingと高齢化～臓器からみるPWHの課題と対策、南 留美 第39回日本エイズ学会学術集会・総会 共催シンポジウム2 2025年12月5日 熊本
- 2) 治療歴のあるHIV感染者におけるビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビル アラフェナミド (B/F/TAF) の12ヵ月間の有効性と安全性：アジア各国の観察コホート研究からの統

- 合解析、南 留美, Lijun Sun, Yu-Ting Tseng, Lin Cai, Ping Ma, 照屋 勝治, 田口 直, Travis Lim, Paul McDwyer, Julie Ryu, Weiping Cai 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 3) 中高年People Living with HIV (PLWH)における運動習慣の重要性 南 留美、高濱 宗一郎、中嶋 恵理子、今井絵利華、小松 真梨子、犬丸 真司、長與 由紀子、城崎 真弓 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 4) ゲイバーとハッテン場へのHIV郵送検査キット設置における有効性と問題点・梅毒同時検査での検討 高濱宗一郎、中嶋恵理子、犬丸真司、長與由紀子、城崎真弓、南留美 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 5) 国内HIV-1伝播クラスター動向（SPHNCS分析）年報-2024年上半期 椎野禎一郎・今橋真弓・南留美・中村麻子・林田庸総・吉村和久・杉浦互・菊地正・薬剤耐性HIV調査ネットワーク 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 6) 薬害HIV感染被害者に対するがん検診受検希望についてのアンケート調査 福田あかり、古賀道子、田中貴大、保坂隆、石坂彩、野島正寛、柿沼章子、後藤智己、藤谷順子、伊藤俊広、今橋真弓、江口晋、遠藤知之、木内英、阪森亮太郎、高橋俊二、照屋勝治、丹生健一、橋本則久、花井十五、藤井輝久、南留美、茂呂寛、横幕能行、渡邊大、渡邊珠代、四柳宏 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 7) 2024年の国内新規診断未治療HIV感染者・AIDS患者における薬剤耐性HIV-1の動向菊地正、西澤雅子、林田庸総、湯永博之、豊嶋崇徳、吉田繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、松田昌和、重見麗、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、末盛浩一郎、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦互 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 8) 日本におけるカボテグラビル+リルピビリンのリアルワールド評価：有効性・安全性およびバイオマーカー動態に関する多施設共同研究 安達 英輔、南 留美、白野倫徳、仲村秀太、福島一彰、今橋真弓、関谷綾子、村松崇、平井由児、吉野友祐、谷口俊文 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 9) HIV感染者のワクチン接種状況に関する多施設アンケート研究（Preliminary Report）金澤晶雄、安達 英輔、今橋真弓、遠藤知之、南留美、福岡里沙、久保田早苗、福島真一、鈴木麻衣、池田麻穂子、森博威、横川博英、内藤俊夫 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 10) HIV関連形質芽球性リンパ腫寛解中に発症した組織球肉腫 中嶋恵理子、今井絵利華、高濱宗一郎、犬丸真司、長与由紀子、城崎真弓、桃崎征也、南留美 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 11) 北陸・南九州のハイリスク層を対象とした郵送検査によるHIV検査モデル構築と効果分析に関する研究 鄭瑞雄、生島嗣、岩橋恒太、本間隆之、南留美、彼谷裕康、渡邊珠代、森永浩次、今村顕史 39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月6日
- 12) 本邦で未治療時に検出されたHIV薬剤耐性変異の伝播寄与の推定 菊地正、西澤雅子、林田庸総、湯永博之、豊嶋崇徳、吉田繁、伊藤俊広、古賀道子、長島真美、貞升健志、佐野貴子、宇野俊介、谷口俊文、猪狩英俊、寒川整、中島秀明、吉野友祐、堀場昌英、茂呂 寛、渡邊珠代、今橋真弓、蜂谷敦子、松田昌和、重見麗、岡崎玲子、岩谷靖雅、横幕能行、渡邊大、阪野文哉、川畑拓也、藤井輝久、高田清式、中村麻子、南 留美、松下修三、仲村秀太、小島潮子、Lucky Runtuwene、椎野禎一郎、吉村和久、杉浦互、薬剤耐性HIV調査ネットワーク 第33回日本抗ウイルス療学会2025年8月21日～23日、東京
- 13) ウイルス遺伝子配列によるわが国のHIV-1国内伝播クラスター・サーベイランス 椎野禎一郎、菊地 正、今橋真弓、南留美、中村麻子、林田庸総、吉村和久、杉浦互、薬剤耐性HIV調査ネットワーク 第84回日本公衆衛生学会総会 2025年10月29日～31日、静岡
- 14) 血友病患者の骨密度低下に関する研究—多施設

共同観察研究のデータよりー 藤井輝久、山崎尚也、中十奈苗、土石川佳世、長尾梓、遠藤知之、武山雅博、鈴木伸明、南留美、日笠聡、上村悠、近澤悠志、大野久美子、木内英 第47回日本血栓止血学会学術集会 2025年6月27-29日、名古屋

- 15) HIV関連形質芽球性リンパ腫寛解期に発生した組織球肉腫 中嶋恵理子、今井絵利華、高濱宗一郎、高瀬謙、桃崎征也、南留美 第87回日本血液学会学術集会 2025年10月10～12日、神戸
- 16) HIVとともに生きる時代へ～日進月歩の医療がもたらす変化 南留美 第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第73回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会、2025年11月29日 福岡
- 17) 日本における PrEP の実装:導入から普及まで、そしてこれから～PrEP 利用者の声と現場の実態 南留美 第95回日本感染症学会西日本地方会学術集会 第73回日本化学療法学会西日本支部総会 合同学会、2025年11月29日 福岡
- 18) HIV関連形質芽球性リンパ腫寛解期に発生した組織球肉腫 井上慎太郎、中嶋恵理子、今井絵利華、高濱宗一郎、桃崎征也、南留美 第351回日本内科学会九州地方会 2025年11月30日 福岡
- 19) 日本における HIV 感染症の最新動向と予防・治療・高齢化への包括的アプローチ 南留美 第79回日本内科学会九州支部生涯教育講演会、2025年11月30日 福岡

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記事項なし